

診療科研修コース申請書
研修コース名【 肝臓内科()コース 】

1. 診療科(専門領域)

肝臓内科

2. コースの概要

臨床研修医を終了した者を対象。

内科基礎プログラム、肝臓内科専門プログラム、肝臓内科専門プログラム のすべてを選択。

3. 取得資格

国立病院機構による 診療認定医(Ⅰ)資格

日本内科学会認定医(初期研修施設によっては受験可能)

日本肝臓学会専門医(受験資格まであと2年の認定施設での研修が必要)

4. 長期目標

肝臓病の専門的知識を習得し、単独で肝臓病の診療ができる。

5. 取得手技

超音波検査、上部消化管内視鏡検査

肝生検、肝腫瘍生検

経皮的エタノール注入療法、経皮的ラジオ波焼灼療法

食道静脈瘤硬化療法、経皮経肝胆道ドレナージ、経皮経肝胆のうドレナージ、血管造影(選択)

以上の手技をひとつおとり、術者として施行できる。

6. 研修期間

3年

7. 募集人数

2名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数(年間)	経験目標症例数(3年間)
急性肝炎	15	10
慢性肝炎	70	30
肝硬変	50	30
食道静脈瘤	40	30
肝細胞癌	150	100
アルコール性肝障害	30	30
自己免疫性肝炎等	15	10

手術	件数(年間)	経験目標件数(3年間)
肝生検、肝腫瘍生検	15	10
経皮的エタノール注入療法 経皮的ラジオ波焼灼療法	40	60
食道静脈瘤硬化療法	60	60

血管造影	80	40
------	----	----

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3 名、非常勤 0 名
 診療科研修の指導にあたる医師 3 名
 主として研修指導にあたる医師の氏名 佐藤 丈顕
 // 診療科経験年数 20 年

10. コンセプト

基本的な肝臓病の診療が単独でおこなえる力をつけます。
 肝臓学会専門医受験に必要な5年間の研修歴の内3年の研修歴が得られます。

11. 一般目標

医療安全、患者の人権への配慮ができる。
 関連領域を含む幅広い知識で患者の病態の全貌を把握する。
 関連診療科と必要な協議をした、的確な治療計画を立案する。
 他の職種との意思疎通を図りチーム医療を実践する。
 医学の進歩に伴う生涯学習を実践する。

12. 関連領域の研修に関して

施設内での研修	可能	不可
施設外との交流研修	可能	不可
研修領域の決定		

本人の意向を研修責任者が聴取し、本人との相談で決定

13. 共通領域研修について

内科カンファレンス(週1回)
 肝臓内科カンファレンス(週1回)
 肝臓病カンファレンス(外科、放射線科合同、月1回)
 消化器病カンファレンス(月1回)
 CPC
 各種研修会・講演会

診療科研修コース申請書
研修コース名【 肝臓内科()コース 】

1. 診療科(専門領域)

肝臓内科

2. コースの概要

臨床研修医を終了した者を対象。

内科基礎プログラム、肝臓内科専門プログラム、肝臓内科専門プログラム、肝臓内科アドバンスプログラムをすべてを選択。

3. 取得資格

国立病院機構による診療認定医()資格

日本内科学会認定医の受験が可能

日本肝臓学会専門医の受験が可能

4. 長期目標

肝臓病の専門的知識を習得し、肝臓病診療について指導ができる。

5. 取得手技

超音波検査、上部消化管内視鏡検査

肝生検、肝腫瘍生検

経皮的エタノール注入療法、経皮的ラジオ波焼灼療法

食道静脈瘤硬化療法、経皮経肝胆道ドレナージ、経皮経肝胆のうドレナージ、血管造影(選択)

以上の手技をひとつおとり、チームのリーダーとして施行できる。

6. 研修期間

5年

7. 募集人数

2名

8. 診療科の実績と経験目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数(年間)	経験目標症例数(5年間)
急性肝炎	15	15
慢性肝炎	70	50
肝硬変	50	50
食道静脈瘤	40	50
肝細胞癌	150	180
アルコール性肝障害	30	50
自己免疫性肝炎等	15	15

手術	件数(年間)	経験目標件数(5年間)
肝生検、肝腫瘍生検	15	15
経皮的エタノール注入療法、 経皮的ラジオ波焼灼療法	40	120

食道静脈瘤硬化療法	60	120
血管造影	80	80

9. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3 名、非常勤 0 名
 診療科研修の指導にあたる医師 3 名
 主として研修指導にあたる医師の氏名 佐藤 丈顕
 " 診療科経験年数 20 年

10. コンセプト

基本的な肝臓病の診療について、後進を指導する力をつけます。
 肝臓学会専門医受験に必要な研修歴が得られます。

11. 一般目標

医療安全、患者の人権への配慮ができる。
 関連領域を含む幅広い知識で患者の病態の全貌を把握する。
 関連診療科と必要な協議をした、的確な治療計画を立案する。
 他の職種との意思疎通を図りチーム医療を実践する。
 医学の進歩に伴う生涯学習を実践する。

12. 関連領域の研修に関して

施設内での研修	可能	不可
施設外との交流研修	可能	不可
研修領域の決定		

本人の意向を研修責任者が聴取し、本人との相談で決定
 希望があれば、当院と同等以上の肝臓内科専門医の教育プログラムの
 ある施設に1年間国内留学も可能。
 (相手先病院は未定だが、国立病院機構内の病院や大学病院を想定)

13. 共通領域研修について

内科カンファレンス(週1回)
 肝臓内科カンファレンス(週1回)
 肝臓病カンファレンス(外科、放射線科合同、月1回)
 消化器病カンファレンス(月1回)
 CPC
 各種研修会・講演会

診療科研修プログラム申請書
研修プログラム名【 **内科基礎プログラム** 】

1. 診療科（専門領域）

内科

2. 研修期間

1年

3. 募集人数

4名

4. 短期目標

内科各分野を各専門領域の指導医の元で研修することにより、総合的な診療能力を高める。

5. 短期取得手技

内科一般の診断・治療手技の習得。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数（年間）	目標症例数（1年間）
内分泌代謝疾患	400	20
肝疾患	400	15
消化器疾患	300	15
呼吸器疾患	400	15
血液疾患	100	5
心療内科疾患	10	3
循環器疾患	150	10
その他	150	10

手術	件数（年間）	目標件数（年間）

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 10 名、非常勤 2 名

診療科研修の指導にあたる医師 10 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 佐藤 丈顕
" 診療科経験年数 20 年

8. コンセプト

専門領域とその関連領域を系統的に研修することで、将来どの領域を専攻するにあたっても必要な基本的内科診療能力を身につける。

9. 共通領域研修について

内科カンファレンス（週1回）、CPC、各種研修会・講演会

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 **肝臓内科専門プログラム** 】

1. 診療科（専門領域）

肝臓内科

2. 研修期間

1年

3. 募集人数

2名

4. 短期目標

肝臓病学の専門的知識を取得する。
 他の職種との意思疎通を図りチーム医療を実践する。

5. 短期取得手技

肝生検、肝腫瘍生検、
 経皮的エタノール注入療法、経皮的ラジオ波焼灼療法
 食道静脈瘤硬化療法、経皮経肝胆道ドレナージ、血管造影。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数（年間）	目標症例数（1年）
急性肝炎	15	5
慢性肝炎	70	10
肝硬変	50	10
食道静脈瘤	40	10
肝細胞癌	150	40
アルコール性肝障害	30	10
自己免疫性肝炎等	15	5

手術	件数（年間）	目標件数（1年）
肝生検、肝腫瘍生検	15	5
経皮的エタノール注入療法 経皮的ラジオ波焼灼療法	40	20
食道静脈瘤硬化療法	60	20
血管造影	80	15

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3 名、非常勤 0 名

診療科研修の指導にあたる医師 3 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 佐藤 丈顕

” 診療科経験年数 20 年

8. コンセプト

肝疾患診療における基礎的な知識をつける。

9. 共通領域研修について

内科カンファレンス（週1回）

肝臓内科カンファレンス（週1回）

肝臓病カンファレンス（外科、放射線科合同、月1回）

消化器病カンファレンス（月1回）

CPC

各種研修会・講演会

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 **肝臓内科専門プログラム** 】

1. 診療科（専門領域）

肝臓内科

2. 研修期間

1年

3. 募集人数

2名

4. 短期目標

肝臓病学の専門的知識を取得する。
 他の職種との意思疎通を図りチーム医療を実践する。

5. 短期取得手技

肝生検、肝腫瘍生検、
 経皮的エタノール注入療法、経皮的ラジオ波焼灼療法
 食道静脈瘤硬化療法、経皮経肝胆道ドレナージ、血管造影。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数（年間）	目標症例数（1年）
急性肝炎	15	5
慢性肝炎	70	10
肝硬変	50	10
食道静脈瘤	40	10
肝細胞癌	150	40
アルコール性肝障害	30	10
自己免疫性肝炎等	15	5

手術	件数（年間）	目標件数（1年）
肝生検、肝腫瘍生検	15	5
経皮的エタノール注入療法 経皮的ラジオ波焼灼療法	40	20
食道静脈瘤硬化療法	60	20
血管造影	80	15

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3 名、非常勤 0 名

診療科研修の指導にあたる医師 3 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 佐藤 丈顕

” 診療科経験年数 20 年

8. コンセプト

肝疾患診療における専門的な知識をつけ、単独で診療できる。

9. 共通領域研修について

内科カンファレンス（週1回）

肝臓内科カンファレンス（週1回）

肝臓病カンファレンス（外科、放射線科合同、月1回）

消化器病カンファレンス（月1回）

CPC

各種研修会・講演会

診療科研修プログラム申請書
 研修プログラム名【 **肝臓内科専門アドバンスプログラム** 】

1. 診療科（専門領域）

肝臓内科

2. 研修期間

2年

3. 募集人数

2名

4. 短期目標

肝臓病学の専門的知識をさらに深める。
 肝臓病専門医として、後進の指導ができる。

5. 短期取得手技

肝生検、肝腫瘍生検、
 経皮的エタノール注入療法、経皮的ラジオ波焼灼療法
 食道静脈瘤硬化療法、経皮経肝胆道ドレナージ、血管造影。

6. 診療科の実績と目標症例数

症例数と手術件数の調査年度 <平成19年度>

主要疾患	入院数（年間）	目標症例数（1年）
急性肝炎	15	5
慢性肝炎	70	10
肝硬変	50	10
食道静脈瘤	40	10
肝細胞癌	150	40
アルコール性肝障害	30	10
自己免疫性肝炎等	15	5

手術	件数（年間）	目標件数（1年）
肝生検、肝腫瘍生検	15	5
経皮的エタノール注入療法 経皮的ラジオ波焼灼療法	40	20
食道静脈瘤硬化療法	60	20
血管造影	80	15

7. 診療科の指導体制

診療科医師数 常勤 3 名、非常勤 0 名

診療科研修の指導にあたる医師 3 名

主として研修指導にあたる医師の氏名 佐藤 丈顕

” 診療科経験年数 20 年

8. コンセプト

肝疾患診療における発展的な知識をつける。

9. 共通領域研修について

内科カンファレンス（週1回）

肝臓内科カンファレンス（週1回）

肝臓病カンファレンス（外科、放射線科合同、月1回）

消化器病カンファレンス（月1回）

CPC

各種研修会・講演会